

社会的インパクト投資フォーラム 2018

- 持続可能な未来型資本市場の展望 -



小宮山宏氏 (GSG 国内諮問委員会委員長)

10 年前に生まれた、経済的なリターンと社会的リターンの両方を求める社会的インパクト投資は、現在は 1,114 億ドルを超える市場規模へと成長し、世界中の投資家が様々な形で社会課題の解決に繋がるこの「インパクト投資」を行っています。日本においても、少子高齢化をはじめとした様々な社会課題が顕在化しており、民間資本の活用を通じた日本の包括的、持続可能な成長に繋がる強固な未来型資本市場の構築は急務といえます。

この社会課題の解決を目指し、社会的インパクト投資の可能性について理解することを目的に、一般財団法人社会的投資推進財団(SIIF)と公益財団法人笹川平和財団(SPF)は、2018 年 2 月 19 日(月)、20 日(火)の両日、笹川平和財団ビル(東京都港区)にて、「[社会的インパクト投資フォーラム 2018-持続可能な未来型資本市場の展望-](#)」を開催しました。会場では連日、金融機関、官公庁、自治体、企業、NPO 団体などから約 300 人が参加し、社会課題解決に関する理解を深め活発な議論を行いました。

基調講演「社会的インパクト投資の旅:2020年までのロードマップ」

“投資のパラダイムシフト:リスクとリターンから「リスク、リターン、インパクト」へ”



ロナルド・コーエン卿(Global Social Impact Investment Steering Group 会長)

基調講演「社会的インパクト投資の旅:2020年までのロードマップ」に登壇したロナルド・コーエン氏は、インパクト投資の国際的協議機関である Global Social Impact Investment Steering Group (GSG) 会長の他、英国の社会的投資タスクフォース、休眠資産委員会の会長を務めており、また、社会的インパクト投資の父としても知られています。

コーエン氏は、社会的インパクト投資の重要性がグローバルに高まっており、特に金融機関やメインストリートの投資家の参入がすすんでいると指摘しました。そして、世界では、投資はリスクとリターンから「リスク、リターン、インパクト」に基づく意思決定へと新しいシフトが起きていると指摘し、リスク、リターン、インパクトの最適化は実現可能であるとの認識を示しました。また、休眠預金を社会課題解決に活用するという分野で、日本は世界の中でリーダーになるチャンスがあると述べ、日本に対し大きな期待を寄せました。

パネル・ディスカッション: 日本における社会的インパクト投資のエコシステム

SIIF 代表理事の青柳光昌が司会を務め、社会課題解決の持続的な成長のためには、事業者、中間支援組織、インパクト評価専門家、研究者、行政などの様々な関係者によるエコシステムの構築が不可欠であることを議論しました。

分科会：日本の社会課題解決に挑む革新的なビジネス:子育てと教育」

“ビジネスを通じた社会的ミッションの実現にこだわる起業家は社会的インパクト投資を選ぶ”

1 日目の分科会「日本の社会課題解決に挑む革新的なビジネス:子育てと教育」では、当財団シニア・オフィサーの菅野文美の司会により、社会的課題解決に挑戦している 3 人の起業家がそれぞれのビジネスモデルや、なぜあえて社会的インパクト投資という形の資金調達を選ぶのかについてディスカッションを行いました。

分科会：社会的インパクト投資のファイナンス手法:ソーシャル・インパクト・ボンド」

2 日目の分科会「社会的インパクト投資のファイナンス手法:ソーシャル・インパクト・ボンド」では、公益財団法人日本財団経営企画部ソーシャルイノベーション推進チームの藤田滋氏がモデレーターを務め、社会的インパクト投資の投資対象としての SIB の可能性と、ファイナンスの観点からの案件組成上の課題を議論しました。

“社会的インパクト投資が「普通」になる社会に向けて”



左から朝日新聞 北郷氏、SIIF 常務理事 工藤、GSG コーエン卿、笹川平和財団 小木曾氏

フォーラムを締めくくる最後のパネル・ディスカッション「社会的インパクト投資の更なる推進に向けて」では、コーエン氏を迎え、笹川平和財団 ジェンダー・イノベーション部グループ長の小木曾麻里氏、当財団常務理事の工藤七子、そしてメディア・パートナーの朝日新聞社報道・編集局長室報道局デスクの北郷美由紀氏とともに、2 日間の議論を振り返り、日本において社会的インパクト投資をどのように推進するかパネルディスカッションが行われました。コーエン氏は、「リターン、リスク、インパクト」の 3 つを最適化することが重要と改めて強調しました。



SIF 代表理事 青柳光昌

閉会の挨拶では、当財団代表理事の青柳が「社会的インパクト投資を議論だけで終わらせずに、実践をしていくことが最も重要」という言葉で2日間に渡るフォーラムを締めくくりました。

関連情報

[「日本における社会的インパクト投資の現状 2017」](#)